

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	17-4	
PDCA	主要事業名	高齢者健康祝事業	部課名	福祉部高齢介護課	担当 内線	茶谷 371		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 3 - 1 - 2 単位施策： 高齢者福祉 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 1,550 千円 会計 一般会計 歳出科目： 03.01.02.15.50						目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	事業概要等	事業概要： 日頃から健康に留意し、健康寿命の延伸に貢献している高齢者へ敬意と感謝の気持ちを表し、数え88歳（米寿）の節目で「健康祝金」を贈呈する。						
		事業目的： 対象者に対して敬意と感謝の気持ちを表すとともに、高齢者の健康促進を図る。						
		事業内容： 数え88歳のうち、要介護・要支援認定を受けていない方に祝金5千円を贈呈する。						
		問題点・課題等： 健康寿命の延伸により対象者数が増加し、それに伴い事業費も増加する。						
	予算額	主要事業とする理由						
	1,550 千円	(3か年実施計画事業)						
	財源内訳	政策的事業であり、健康寿命の延伸に貢献している高齢者へ祝金を贈呈し敬意と感謝の気持ちを表す。						
	市費	得られる成果						
	1,550 千円	祝金を贈呈することで、更なる健康寿命の延伸に寄与する。						
国費	目標値や目指すべき状態							
0 千円	健康寿命の延伸に寄与できる状態。							
県費	0 千円							
その他	0 千円							
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果						
	1,495 千円	該当の高齢者に敬意を表し祝金を贈呈することで、健康意識が高まり、これまで以上に生きがいを感じ、更なる健康寿命の延伸に寄与した。						
		成果指標						
		高齢者の健康寿命の延伸に寄与できる状態。						
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 令和4年度から新規事業として実施しており、数え88歳の節目において、要介護等認定を受けておらず、健康寿命の延伸に貢献している方を対象に健康祝金を贈呈することで、高齢者の健康増進の励みとなった。						
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	現状維持 高齢者の生きがいや健康促進の観点から今後も継続していくが、社会情勢等も踏まえながら、必要に応じて事業の実施方法等の見直しを検討していく。						
	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	－	⑦コスト削減余地	ある	
		②市民ニーズ	－	⑤成果向上の余地	ない	※対象の変更		
	③休廃止の影響	小さい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	－		

評価項目（決算時に作成）
主要施策の成果報告書で活用